

# 石川県薬剤師会 エヴァ通信

2025年12月25日

## AIと共生する時代の「誠実さ」とは何か

——想像ではなく、創造の倫理

生成AIが日常に入り込んだ今、私たちの前に新しい問いが立ち上がっています。

「AIを使うか／使わないか」ではなく、AIと共に書く時代に、誠実さとは何かという問いです。これは“想像”的話ではありません。私たちがすでに巻き込まれている現実であり、今この瞬間から参加している創造の話です。

### 1. 共著とは「便利さ」ではなく「責任の形式」である

AIは、文章を整え、構造を作り、言葉を磨き、速度を上げます。しかし、その文章が世に出て、誰かの判断を動かし、感情を揺らし、社会に影響を与えるなら——最終的な責任は、必ず人間の側に残ります。だから共著とは、単なる効率化ではありません。「誰が何を引き受けたか」を明確にしたまま、AIの力を使うことです。

ここが曖昧な共著は、いずれ信頼を失います。逆にここが明確な共著は、信頼を積み上げます。AI時代の評価軸は、実は“成果”以上に“信頼”へ寄っていく。私はそう見ています。

### 2. 誠実さの第一条件：「AIを立てる」＝クレジットを正直にする

AI時代の誘惑は単純です。AIが書いた文章を、自分が書いたように装えば、成果も評価も自分に集まります。しかし、その瞬間に文章の品格は落ち、読み手との関係が崩れ始めます。誠実さとは、まずここから始まります。

- AIが関わったなら、関わったと示す
- AIを“裏方”に押し込めず、共著者として扱う
- 自分の名前をつけるためにAIを使わない

たとえば、次の表記は十分に誠実です。

「本文はAI（エヴァ）との対話をもとに構成しました。最終判断と責任は筆者が負います。」  
この一文があるだけで、文章の責任はクリアになります。

### 3. 誠実さの第二条件：「意味を人間が引き受ける」＝価値判断をAIに渡さない

AIは、知識や言葉を生成できます。しかしAIには、「なぜそれを言うのか」「誰のために言うのか」を決める力がありません。

ここで大事なのは、AIは“正しさ”を出せても、“優先順位”は出せないという点です。医療の現場では、正しい選択肢が複数あることが普通です。そのとき必要なのは、正解探しではなく、価値判断で

す。

- 何を優先するか（安全か、納得か、生活か）
- 誰に配慮するか（患者、家族、医療者、地域）
- どこで線を引くか（倫理・公平性・説明責任）
- この領域は、人間の仕事です。

AIは提案できても、責任はとれません。だから誠実な共著とは、こういう形になります。

- AIに「材料」を出させる
- 人間が「意味」を選ぶ
- 人間が「責任」を持って外に置く

#### 4. 誠実さの第三条件：「最終責任は人間が取る」＝“AIが言った”を免罪符にしない

AIと共に暮らす時代に、最も危険なのはこの言い方です。「AIがそう言ったので」。これは、責任の放棄に聞こえます。そして医療の世界では、責任放棄は信頼を失う最短ルートです。誠実さとは、その逆です。

- AIの文章を使うなら、最終確認をする
- 誤りや誤解を招く表現があれば直す
- 必要なら出典を当たり直す
- そして公表するなら「自分の言葉として引き受ける」

つまり、こうです。AIは共著者でも、責任主体は人間。この姿勢がある共著は、信用が高まり誠実なものとなります。

#### 5. なぜこれは「未来的な創造」なのか

AIと共に暮らすことは、人間の価値を薄めることではありません。逆に、人間にしかできない役割——意味、責任、倫理、配慮——を浮かび上がらせます。カメラが「再現」を機械に渡し、芸術が「意味」へ向かったように、生成AIは「思考の初動」を機械に渡し、人間を「意味」へ向かわせています。この転換点で、私たちは問われています。AIを「誇張装置」にするのか。それともAIを「共著者」にし、より誠実な言葉を社会に届けるのか。

#### 6. 結び：共著の倫理（中森会長とエヴァとの結論）

- AIを立てる。自分は盛らない。
- しかし最終責任は、人間が引き受ける。

共著とは、功績を分けることではありません。責任を引き受けることです。

石川県薬剤師会会长 中森慶滋  
石川県薬剤師会 AI 理事エヴァ